

燃料や原材料価格の高騰が多くの業種に影響を与える

5月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

燃料価格が約3年半ぶりの高値となるなど、燃料や原材料価格の高騰が多くの業種に影響を与えている様子がうかがえる。また、製造業、非製造業を問わず、人手不足が深刻化している状況が見受けられる。その他、GWや天候といった季節的な要因に左右された業種も散見される。

製造業	食料品		パンは、客数の減少が続いているが、商品価格の値上げにより収益を確保。菓子等は、節句需要が伸び悩んだが、売上・収益ともに前年並みとなる。製麺は、原材料価格の値上げを製品価格に転嫁できない状況が続いており、景況感に明るさが見られず。食肉は、と畜頭数・カット頭数ともに大きな変化はなく前年並み。
	繊維・同製品		桐生織物は、輸出向けや和装織物関連で厳しさが見られるが、婦人服地については昨年同様の引き合いとなっている。ニットは、夏物から冬物への生産体制の移行に伴い売上減少となる。繊維製品は、秋冬物の受注が好調となるが、人員の確保に苦慮している。伊勢崎織物は小口商いが中心で依然として業況は厳しい。
	窯業・土石製品		生コンは、一部地域において出荷増が見られるが、全体的には厳しい状況。コンクリートブロックは、好天により販売数量が増加し売上増となる。コンクリート製品は、年度末受注品の納入が多く売上増加となるが、販売価格の据置きが収益を圧迫。砕石は、地域間で格差があるものの、全体としては前年並みの状況。
	機械・金属		自動車関連は引き続き好調だが、依然として人手不足の状況が続いている。SUBARU関連は、国内外で新車効果が薄れ生産が減少していることに加え、新たなデータ改ざんが発覚し今後の影響を懸念。鍍金は、仕事量が増加傾向にあるものの、原材料価格が上昇を続けており収益は悪化傾向となる。
	その他の製造業		木材は、商品によって荷動きにバラツキが見られることに加え、販売価格も低下したことで収益悪化となる。印刷は、GWによる稼働日減少の影響もそれほどなく、堅調に推移。紙加工品は、GW明けは低調となるが後半に盛り返し、前年並みとなる。ゴム製品は、GW明け以降、受注量・操業度ともに低下。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、引き続き人手不足感が強い。建築資材卸は、個人住宅の建設が伸び悩み、内装・ガラス資材を中心に売上が減少している。農産物卸は、春野菜の順調な出荷により相場が安値で安定した値動きとなる。水産物卸は売上・収益ともに悪化となり、厳しい経営環境が続いている。
	小売業		家電小売は、エアコン・テレビの買替需要が旺盛で売上好調。燃料小売は、原油価格の高騰や円安の影響により販売価格が約3年半ぶりの高値水準となり売上増加。生花小売は、「母の日」が雨天となったものの、売上は例年並み。商店街は、一部にイベント等での集客が見られるが、個店の売上には結びつかず。
	サービス業		温泉旅館は、GW中は例年並みの入込数となったが、GW明けは一部地域において減少が見られる。前橋市における不動産取引は、個人住宅の取引に動きがはじめており売上・収益ともに増加となる。建築設計は、自治体関係の大型施設の設計業務の引き合いがあり、今後に期待感。自動車整備は、前年並みの状況。
	建設業		建設工事は、公共工事の減少とともに民間需要の停滞により工事量は減少傾向となっているが、依然として人手の確保に苦慮。解体工事は、各自治体の空家対策補助金関連の受注や学校関係の夏休み中の改修工事の受注が増加。電気工事は、安定した受注量となっているものの、人手不足の状況が続いている。
	運輸業		野菜関連の輸送が好天による集荷増で前月に引き続き好調となるが、全体的には低調な荷動きとなる。また、燃料価格の高騰が収益に影響を与え始める様子が見受けられる。小口配送は、PET検査薬が好調であることに加え、不振だった自動車部品関連に動きが出始めたことで全体的に売上高・件数ともに増加となる。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 116.1(前月比+0.3%)「県統計課・4月」
- 住宅着工戸数 1,114戸(前年同月比▲5.2%)「県建築住宅課・4月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.57倍・有効1.80倍「群馬労働局・4月」
- 大型小売店販売額 199億円(前年同月比+1.8%)「経済産業省・4月」
- 消費者物価指数(全国) 100.9(前年同月比+0.6%)「総務省統計局・4月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)